

来たるべきグラムシ

— 没後80年のアクチュアリティ

いまアントニオ・グラムシを読むとはどういうことか？ ヘゲモニー、サバルタン、有機的知識人、陣地戦など、これまでグラムシは政治思想、社会思想、カルチュラル・スタディーズをはじめ、様々な分野で積極的に受容されてきた。他方で、この「獄中の思想」そのものの検討は、いまだ緒についたばかりである。本講演会では、千野貴裕氏をお招きし、海外の研究動向を踏まえつつ、グラムシ研究のフロンティアとその可能性についてひろく再検討をおこなう。

日時：2017年9月19日(火) 14時～18時

場所：立命館大学・衣笠キャンパス

(学而館2階第2研究室)

提題者：千野貴裕

(早稲田大学教育・総合科学学術院専任講師。ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン博士課程修了。PhD in Political Science。早稲田大学政治経済学術院助教、欧州大学院マックス・ウェーバー・フェロー、日本学術振興会特別研究員PD等を経て現職)

「グラムシアン・モーメント：グラムシにおけるヘゲモニーと市民社会を再考する」

討論者：倉科岳志(京都産業大学)

尾場瀬一郎(立命館大学)

司会：山本圭(立命館大学)

※参加費無料・予約不要

※本講演会は、科学研究費補助金・若手研究(B)「ポスト基礎付け主義時代におけるデモクラシーの行方」(代表：山本圭)の支援にもとづきます。お問い合わせ：kyama@fc.ritsumeai.ac.jp (山本)